

高齢者向けの服薬補助剤から錠剤やカプセルを包む包装技術へ……。気密性の高い包装・服薬技術をもとにして次々と新商品を生み出すのは製剤技術開発ベンチャーのモリモト医薬(大阪市)だ。盛本修司社長(55)は「これまで開発してきた製剤技術をよりよく市場に投入できる段階にきた。企業として次なる飛躍を目指す」と強い意欲をみせる。

同社は武田薬品工業に勤め、製剤技術の研究部門で粉末剤の充填装置などの開発に長年携わってきた盛本社長が2005年に設立した。創業当初は機器の高速化などシステム開発が中心だったが、14年夏に自社製品を市場に投入している。

盛本社長は武田薬品を辞めた後、中国で医薬品原材料や製造機器などの輸出入、中国関連の医薬分野のコンサルティングを手掛けていた。今のビジネスを始めた背景には「もっと服薬の安全性を高めたい」という思いが

# 誤飲根絶へ安全追求

## これで勝負

この現場で、こうした誤嚥(ごえん)や誤飲を減らすことができないか。そのためには新たな製剤技術が必要と考えた。そこで開発したのが「弱シール」と呼ぶ技術だ。

この現場で、こうした誤嚥(ごえん)や誤飲を減らすことができないか。そのためには新たな製剤技術が必要と考えた。そこで開発したのが「弱シール」と呼ぶ技術だ。

弱シールを応用して開封約4億円を投じ、本社工場内に専用ラインを導入し、量産体制も完成。G T剤やクイックバッグなどで年間13億円の売り上げを見込んでいる。

原料コスト同じ

現場で需要が見込まれる成長の起爆剤となるのが、新たな薬剤包装技術として開発した「弱シール」だ。弱シール技術を応用した薬剤包装で、誤飲しても体内を傷つけない透明で軟らかな樹脂フィルムで気密性も高い。しかもESOPの原料コストはPTP包装とほぼ同じ1円程度だ。

PTP市場は国内100億円、海外1000億円超とみられ、代替素材として販売を強化すれば魅力的な市場になる。ESOPは企業などとの連携プロジェクトを通じて提供、ライセンス供与などを想定する。

盛本社長は「製剤技術開発を進めるのは何より誤飲事故を根絶するたため。利益は協力先、連携先と分け合い、まずは早期普及を目指したい」と話す。成長への野望と安全・安心の追求、盛本社長が追い求める理想は高い。(高田倫志)

## 薬剤包装、体内傷つけず

これは薬などを入れる高分子フィルムを封止する独自技術で、通常の状態で20kgの力を加えても開封しない高气密性を誇る。ただ、フィルムを折り曲げるなど圧力と衝撃を加えるとフィルムを開くことができる。

胃腸(いろう)用の薬剤「シ」(PTP)という包装形態の改革だ。PTPはアルミなどの薄い金属でプラスチックでできて

弱シールを応用して開封約4億円を投じ、本社工場内に専用ラインを導入し、量産体制も完成。G T剤やクイックバッグなどで年間13億円の売り上げを見込んでいる。

原料コスト同じ

現場で需要が見込まれる成長の起爆剤となるのが、新たな薬剤包装技術として開発した「弱シール」だ。弱シール技術を応用した薬剤包装で、誤飲しても体内を傷つけない透明で軟らかな樹脂フィルムで気密性も高い。しかもESOPの原料コストはPTP包装とほぼ同じ1円程度だ。

PTP市場は国内100億円、海外1000億円超とみられ、代替素材として販売を強化すれば魅力的な市場になる。ESOPは企業などとの連携プロジェクトを通じて提供、ライセンス供与などを想定する。

盛本社長は「製剤技術開発を進めるのは何より誤飲事故を根絶するたため。利益は協力先、連携先と分け合い、まずは早期普及を目指したい」と話す。成長への野望と安全・安心の追求、盛本社長が追い求める理想は高い。(高田倫志)

【会社概要】  
 ▼本社 大阪市西淀川区  
 ▼売上高 約4億6000万円 (2014年12月期)  
 ▼従業員数 約50人

武田薬品工業を退職後、貿易・コンサル事業を経て2005年に盛本修司氏が設立。経済産業省の「KANSAIモノ作り元気企業2008」に選ばれたほか、大阪市トップランナー事業者の認定も受ける。

### 製剤技術開発 モリモト医薬



自社工場兼研究所では高气密技術を使った様々な製剤包装商品を開発する

おり、気密性が高く、安価なために広く錠剤の包装に使われている。

ただ、PTPは1錠ごと切り離すと角が鋭利になり、高齢者や子供が誤飲して喉や腸を傷つける事故が多発している。腹痛や吐き気などの症状が出るまで誤飲に気づかず、X線写真でも見つけにくい。発見が遅れ、重症化するケースも多い。厚生労働省はPTP長が追い求める理想は高い。(高田倫志)